



Windows でのインストール・ガイド

Version 2024.1
2024-06-03

Windows でのインストール・ガイド

InterSystems IRIS Data Platform Version 2024.1 2024-06-03

Copyright © 2024 InterSystems Corporation

All rights reserved.

InterSystems®, HealthShare Care Community®, HealthShare Unified Care Record®, IntegratedML®, InterSystems Caché®, InterSystems Ensemble®, InterSystems HealthShare®, InterSystems IRIS®, および TrakCare は、InterSystems Corporation の登録商標です。HealthShare® CMS Solution Pack™ HealthShare® Health Connect Cloud™, InterSystems IRIS for Health™, InterSystems Supply Chain Orchestrator™, および InterSystems TotalView™ For Asset Management は、InterSystems Corporation の商標です。TrakCare は、オーストラリアおよび EU における登録商標です。

ここで使われている他の全てのブランドまたは製品名は、各社および各組織の商標または登録商標です。

このドキュメントは、インターシステムズ社(住所: One Memorial Drive, Cambridge, MA 02142)あるいはその子会社が所有する企業秘密および秘密情報を含んでおり、インターシステムズ社の製品を稼動および維持するためにのみ提供される。この発行物のいかなる部分も他の目的のために使用してはならない。また、インターシステムズ社の書面による事前の同意がない限り、本発行物を、いかなる形式、いかなる手段で、その全てまたは一部を、再発行、複製、開示、送付、検索可能なシステムへの保存、あるいは人またはコンピュータ言語への翻訳はしてはならない。

かかるプログラムと関連ドキュメントについて書かれているインターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載されている範囲を除き、ここに記載された本ドキュメントとソフトウェアプログラムの複製、使用、廃棄は禁じられている。インターシステムズ社は、ソフトウェアライセンス契約に記載されている事項以外にかかるソフトウェアプログラムに関する説明と保証をするものではない。さらに、かかるソフトウェアに関する、あるいはかかるソフトウェアの使用から起こるいかなる損失、損害に対するインターシステムズ社の責任は、ソフトウェアライセンス契約にある事項に制限される。

前述は、そのコンピュータソフトウェアの使用およびそれによって起こるインターシステムズ社の責任の範囲、制限に関する一般的な概略である。完全な参照情報は、インターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載され、そのコピーは要望によって入手することができる。

インターシステムズ社は、本ドキュメントにある誤りに対する責任を放棄する。また、インターシステムズ社は、独自の裁量にて事前通知なしに、本ドキュメントに記載された製品および実行に対する代替と変更を行う権利を有する。

インターシステムズ社の製品に関するサポートやご質問は、以下にお問い合わせください:

InterSystems Worldwide Response Center (WRC)

Tel: +1-617-621-0700

Tel: +44 (0) 844 854 2917

Email: support@InterSystems.com

目次

1 Windows でのインストールの概要	1
1.1 このドキュメントの使用方法	1
1.2 プロダクション・システムでの展開	1
2 Windows でのインストール前の手順	3
2.1 手順 1：サポート対象プラットフォームの確認	3
2.2 手順 2：Windows ユーザ・アカウントの選択	3
2.3 手順 3：Web サーバのインストール	3
2.4 手順 4：VS Code ObjectScript 開発環境のインストール	4
2.5 手順 5：InterSystems IRIS キットの入手	4
2.6 手順 6：インストール方針の選択	4
3 Windows での手動インストール	5
3.1 手順 1：インストール・ファイルの実行	5
3.2 手順 2：インストールの開始	5
3.3 手順 3：インスタンスの名前付け	6
3.4 手順 4：インストール・ディレクトリの選択	6
3.5 手順 5：セットアップ・タイプの選択	6
4 Windows での開発インストール	9
4.1 開発インストールの概要	9
4.2 手順 1：Web サーバの構成	9
4.3 手順 2：Unicode サポートのインストール	10
4.4 手順 3：初期セキュリティの設定	10
4.5 手順 4：認証情報の入力	10
4.6 手順 5：ユーザの構成	11
4.7 手順 6：インストールの確認	11
4.8 手順 7：インストールの完了	11
5 Windows でのサーバ・インストール	13
5.1 サーバ・インストールの概要	13
5.2 手順 1：Web サーバの構成	13
5.3 手順 2：Unicode サポートのインストール	14
5.4 手順 3：初期セキュリティの設定	14
5.5 手順 4：認証情報の入力	14
5.6 手順 5：ユーザの構成	15
5.7 手順 6：インストールの確認	15
5.8 手順 7：インストールの完了	15
6 Windows でのクライアント・インストール	17
6.1 クライアント・インストールの概要	17
6.2 手順 1：インストールの確認	17
6.3 手順 2：インストールの完了	18
7 Windows での Web サーバのインストール	19
7.1 Web サーバのインストールの概要	19
7.2 手順 1：外部の Web サーバの構成	19
7.3 手順 2：インストールの確認	20
7.4 手順 3：インストールの完了	20
8 Windows でのカスタム・インストール	21

8.1 カスタム・インストールの概要	21
8.2 手順 1 : コンポーネントの選択	21
8.3 手順 2 : Web サーバの構成	22
8.4 手順 3 : Unicode サポートのインストール	22
8.5 手順 4 : ポート番号の設定	22
8.6 手順 5 : 初期セキュリティの選択	23
8.7 手順 6 : 認証情報の入力	23
8.8 手順 7 : ユーザの構成	23
8.9 手順 8 : インストールの確認	23
8.10 手順 9 : インストールの完了	24
9 Windows での自動インストール	25
9.1 自動インストールの概要	25
9.2 手順 1 : 開始前	25
9.3 手順 2 : 指定するプロパティの決定	26
9.4 手順 3 : インストールする機能の決定	26
9.5 手順 4 : インストール・コマンドの作成	26
9.6 手順 5 : インスタンスのインストール	27
10 Windows でのインストール後の手順	29
10.1 インストール後のタスク	29

1

Windows でのインストールの概要

Windows でのインストール・ガイドは、Microsoft Windows 上に InterSystems IRIS のキットを使用した展開をインストールするためのガイダンスを提供します。

1.1 このドキュメントの使用方法

すべてのインストールにおいて、[インストール前](#)の手順から開始する必要があります。その後、[手動](#)または[自動](#)のいずれかのインストール手順に従います。手動インストールのプロセスは、選択するセットアップ・タイプに応じて異なります。手動インストールの手順の実行後、選択したセットアップ・タイプのドキュメントを使用して、インストール・プロセスを続行します。インストールが完了したら、実行する必要がある追加のタスクについて [“UNIX、Linux、および macOS でのインストール後の手順”](#) のセクションを参照してください。

このドキュメントでは、手順を“既定”と“詳細”というセクションに分けています。“既定”には、指定の手順に対する基本的な情報、実行する必要があるアクションについての詳細、および選択すべきオプションについての推奨事項が含まれます。“詳細”には、追加の詳細情報と選択できるその他のオプションが含まれます。

通常、InterSystems IRIS をすばやく使用を開始するには、“既定”のセクションで十分です。特定の手順または選択すべきオプションがはっきりわからない場合は、“既定”のセクションのガイダンスに従うことをお勧めします。

1.2 プロダクション・システムでの展開

ライブ・プロダクション・システムでの展開は、開発システムでの展開より複雑な手順となります。特に、自由に使用できるリソースについて慎重に考慮し、それに応じて構成と展開を計画する必要があります。インストール・プロセスを開始する前に、リソースの計画と管理についての詳細なガイダンスを提供している以下のセクションを確認してください。

- ・ [システム・リソースの計画と管理](#)
- ・ [メモリと開始設定](#)

このドキュメントで概説する手順に従うこともできますが、“既定”セクションで説明する手順が、ユーザのシステムでは十分でない場合があります。“詳細”セクションを含め、各手順を十分に確認し、システムに適した構成を選択してください。

さらに、プロダクション・システム向けにインストールする場合は、以下の点も考慮する必要があります。

- ・ プロダクション・システムでは[自動](#)インストールが推奨されます。この方法では、構成を保存して、同じ設定で再度展開することが容易になります。

- ・ “ロック・ダウン” セキュリティ設定を使用してインストールを行う必要があります。これにより、展開の初期セキュリティは最強となります。詳細は、“[インターシステムズの初期セキュリティ設定](#)”を参照してください。
- ・ 手動インストールを実行する場合は、[カスタム](#)・インストールをお勧めします。これにより、展開に必要なコンポーネントのみをインストールできます。

2

Windows でのインストール前の手順

ここでは、InterSystems IRIS の Windows でのインストールにおけるインストール前の手順を詳しく説明します。

開始する前に、以下を含め、“[Windows でのインストールの概要](#)”を確認してください。

- ・ [このドキュメントの使用方法](#)
- ・ [プロダクション・システムでの展開](#)

2.1 手順 1：サポート対象プラットフォームの確認

既定：

- ・ インストールの前に“インターシステムズのサポート対象プラットフォーム”を確認して、使用する予定のテクノロジーがサポートされていることを確認します。

2.2 手順 2：Windows ユーザ・アカウントの選択

既定：

- ・ 定義済みの Windows ドメインの管理者アカウントを使用します。
- ・ 既定の SYSTEM アカウントも使用できますが、これは推奨されません。

詳細：

- ・ “[Windows ユーザ・アカウント](#)”で詳細を確認してください。

2.3 手順 3：Web サーバのインストール

既定：

- ・ [Microsoft Internet Information Services \(IIS\)](#) を有効にします。[HTTP リダイレクト] と [WebSocket プロトコル] も必ず有効にしてください。

詳細：

- ・ 別のサポート対象 Web サーバをインストールします (この Web サーバは手動で構成する必要があります)。
- ・ Microsoft IIS をオフにして続行します (Web サーバを手動で構成する必要があります)。
- ・ IIS 自動構成が成功するか、スキップされない限り、一部のインストールは失敗します。自動構成をスキップするには、コマンド行からインストール・ファイルを実行して、CSPSKIP=1 フラグを指定します。詳細は、“[Web サーバのインストール](#)” を参照してください。

2.4 手順 4：VS Code ObjectScript 開発環境のインストール

既定：

- ・ [Visual Studio Code 用の InterSystems ObjectScript 拡張機能](#)をインストールします。
- ・ これは、InterSystems IRIS をインストールする前または後に実行できます。
- ・ 開発環境により、VS Code を使用して InterSystems IRIS サーバに接続し、ObjectScript でコードを開発できます。

詳細：

- ・ [スタジオ](#)は、VS Code – ObjectScript の代替手段です。これは、Windows ベースのオペレーティング・システムに InterSystems IRIS と共にインストールされます。

2.5 手順 5：InterSystems IRIS キットの入手

既定：

- ・ [WRC InterSystems IRIS キットのダウンロード・サイト](#)からインストール・キットを入手します。

2.6 手順 6：インストール方針の選択

既定：

- ・ インストーラ・ウィザードを使用して、[手動インストール](#)を実行します。

詳細：

- ・ [自動インストール](#)を実行します。
- ・ [インストール・マニフェスト](#)を使用します。

3

Windows での手動インストール

ここでは、インストーラ・ウィザードを使用した手動インストールの初期手順について詳しく説明します。
ここに示す手順を実行する前に、以下を完了していることを確認してください。

- ・ [Windows でのインストール前の手順](#)

3.1 手順 1：インストール・ファイルの実行

既定：

- ・ インストール・ファイルをダブルクリックして、インストーラ・ウィザードを起動します。

詳細：

- ・ コマンド行からインストール・ファイルを起動します。そうすることで、[コマンド行のプロパティ](#)を使用してインストールを変更できます。例えば、以下のようにすると、インストール直後に InterSystems IRIS が起動されなくなります。

```
C:\Users\Public\Downloads\IRIS-<version_number>-win_x64.exe ISCSTARTIRIS=0 ISCSTARTLAUNCHER=0
```

- ・ Windows の [Unicode 対応ではないプログラムの言語] 設定を変更することで、インストーラ・ウィザードの言語を変更できます。

3.2 手順 2：インストールの開始

既定：

- ・ [新規インスタンス] を選択して、[OK] をクリックします。
- ・ [次へ] で次のダイアログ・ボックスに進み、[戻る] で前のダイアログ・ボックスに戻り、[キャンセル] でインストールが停止します。
- ・ [使用許諾契約書] の条項を確認します。[使用許諾契約書に同意します] をクリックして、ライセンス契約に同意します。

詳細：

- ・ 既存のインスタンスをクリックして、インスタンスをアップグレードします。

3.3 手順 3 : インスタンスの名前付け

既定 :

- ・ [次へ] をクリックして、既定の名前を使用します。

詳細 :

- ・ 英数字、アンダースコア、ダッシュのみを使用して、インスタンスに一意の名前を付けます。
- ・ 既定の名前は **IRIS** です (別のインスタンスが存在する場合は **IRISn** になります。n は、既にインストールされた InterSystems IRIS インスタンスの数です。2 番目のインスタンスは **IRIS1** になります)。

3.4 手順 4 : インストール・ディレクトリの選択

既定 :

- ・ [次へ] をクリックして、既定のインストール・ディレクトリを使用します。

`C:\InterSystems\<name-of-instance>`

詳細 :

- ・ [変更] をクリックして、別のインストール先ディレクトリを指定します。InterSystems IRIS をインストール可能な場所の詳細は、“[インストール・ディレクトリ](#)”を参照してください。
- ・ 指定されたディレクトリが存在しない場合、インストーラ・ウィザードにより自動的に作成されます。

3.5 手順 5 : セットアップ・タイプの選択

既定 :

- ・ [開発] のセットアップ・タイプを選択し、[次へ] をクリックして続行します。
- ・ 引き続き、ドキュメントで[開発](#)セットアップ・タイプについて確認してください。

詳細 :

- ・ 任意のセットアップ・タイプを選択します。異なるセットアップ・タイプの詳細は、“[セットアップ・タイプの選択](#)”を参照してください。
- ・ 引き続き、ドキュメントで選択したセットアップ・タイプについて確認してください。
 - [開発](#)
 - [サーバ](#)
 - [クライアント](#)
 - [Web サーバ](#)
 - [カスタム](#)

- ・ Web ゲートウェイをインストールする際に、お使いのシステムに CSP ゲートウェイが既にインストールされている場合は、インストーラにより CSP ゲートウェイが Web ゲートウェイに自動的にアップグレードされます。詳細は、“[既存の CSP ゲートウェイ](#)” を参照してください。

4

Windows での開発インストール

ここでは、インストーラ・ウィザードを使用した手動の開発インストールの手順について詳しく説明します。
ここに示す手順を実行する前に、以下を完了していることを確認してください。

- ・ [Windows でのインストール前の手順](#)
- ・ [Windows での手動インストール](#) (初期手順)

4.1 開発インストールの概要

既定：

- ・ 開発インストールでは、開発システムで必要となる InterSystems IRIS コンポーネントのみがインストールされます。

詳細：

- ・ 開発インストールには、以下のコンポーネント・グループが含まれます。
 - InterSystems IRIS データベース・エンジン (ユーザ・データベース、言語ゲートウェイ、およびサーバ監視ツールを含む)
 - InterSystems IRIS ランチャー
 - スタジオ
 - データベース・ドライバ
 - InterSystems IRIS アプリケーション開発 (言語バインディングを含む)
 - Web ゲートウェイ
- ・ これらのコンポーネント・グループの詳細は、“[セットアップ・タイプの選択](#)”を参照してください。

4.2 手順 1：Web サーバの構成

既定：

- ・ インストーラに“ローカル IIS Web サーバが検出されました”と表示されていることを確認し、[このインスタンスにローカル IIS Web サーバを構成する] オプションを選択します。
- ・ インストーラに“ローカル Web サーバが見つかりません”と表示されている場合は、[インストールを中断]を選択します。“Web サーバのインストール”を確認し、Microsoft Internet Information Services (IIS) がオンになっていることを確認して、インストール・ファイルを実行することによりインストール・プロセスを開始します。

詳細：

- ・ IIS Web サーバを使用し、インストーラ・ウィザードがこれを自動的に構成できるようにすることをお勧めします。自動構成動作を確認してください。
- ・ インストール後に Web サーバを手動で構成することができます。このためには、インストール・プロセスの終了後に追加の手順が必要となります。この方法を選択する場合は、Web サーバを構成せずに続行するオプションを選択して、インストール・プロセスを続行してください。

4.3 手順 2：Unicode サポートのインストール

既定：

- ・ [Unicode] を選択します。

詳細：

- ・ 8 ビットおよび Unicode システムの詳細とシステムでどちらを選択すべきかについての詳細は、“文字幅設定”を参照してください。

4.4 手順 3：初期セキュリティの設定

既定：

- ・ [通常] を選択します。

詳細：

- ・ さまざまなセキュリティ設定と、システムで 1 つを選択する方法の詳細は、“インターシステムズの初期セキュリティ設定”を参照してください。

4.5 手順 4：認証情報の入力

既定：

- ・ [既定の SYSTEM アカウント下で InterSystems IRIS を実行] を選択します。

詳細：

- ・ SYSTEM アカウントが常に適切とは限りません。使用するべきアカウントについての詳細は、“Windows ユーザ・アカウント”を参照してください。

- ・ 定義済みのユーザ名アカウントを指定します。インストーラにより、そのアカウントがドメインに存在すること、およびパスワードが正しいことが確認されます。

4.6 手順 5 : ユーザの構成

既定 :

- ・ 事前定義のすべての InterSystems IRIS ユーザ・アカウントで使用されるパスワードを入力します。
- ・ [次へ] を選択したら、CSPSystem アカウントのパスワードを入力します。
- ・ どちらのパスワードも、3 ~ 32 文字 (ロックダウン・インストールを選択した場合は 8 ~ 32 文字) で指定する必要があります。

詳細 :

- ・ パスワードの条件の詳細は、“[インターシステムズの初期セキュリティ設定](#)” を参照してください。
- ・ この手順で作成された事前定義のアカウントの詳細は、“[事前定義のユーザ・アカウント](#)” を確認してください。

4.7 手順 6 : インストールの確認

既定 :

- ・ 指定したインストール・オプションを確認します。
- ・ (オプション) [ライセンス] ボタンを選択して、InterSystems IRIS キーが配置されているディレクトリに移動します。キーが妥当であれば自動的に有効化され、[インストール・オプションの概要] の [ライセンスキー] 設定が更新されて [妥当] と表示されます。
- ・ インストール・オプションを確認し、オプションとしてライセンス・キーを追加したら、[インストール] を選択します。

詳細 :

- ・ この手順でライセンス・キーを有効化すると、インストール時に自動的に `install-dir/mgr` にコピーされ、`iris.key` という名前に変更されます。
- ・ この手順でライセンス・キーを有効化しない場合は、インストール後にこれを有効化できます。詳細は、“[ライセンス・キーの有効化](#)” を参照してください。

4.8 手順 7 : インストールの完了

既定 :

- ・ インストール・プロセスが完了したら、“[Windows でのインストール後の手順](#)” に進みます。

詳細 :

- ・ 既定では、インストールが完了すると、InterSystems IRIS が自動的に起動し、Windows ツール・バーのシステム・トレイ領域に InterSystems IRIS ランチャーのアイコンが追加されます。**[InterSystems IRIS]** の項目も Windows の **[プログラム]** メニューに追加されます。

5

Windows でのサーバ・インストール

ここでは、インストーラ・ウィザードを使用した手動のサーバ・インストールの手順について詳しく説明します。
ここに示す手順を実行する前に、以下を完了していることを確認してください。

- ・ [Windows でのインストール前の手順](#)
- ・ [Windows での手動インストール](#) (初期手順)

5.1 サーバ・インストールの概要

既定：

- ・ サーバ・インストールでは、サーバ・システムで必要となる InterSystems IRIS コンポーネントのみがインストールされます。

詳細：

- ・ サーバ・インストールには、以下のコンポーネント・グループが含まれます。
 - InterSystems IRIS データベース・エンジン (ユーザ・データベース、言語ゲートウェイ、およびサーバ監視ツールを含む)
 - InterSystems IRIS ランチャー
 - Web ゲートウェイ
- ・ これらのコンポーネント・グループの詳細は、“[セットアップ・タイプの選択](#)” を参照してください。

5.2 手順 1：Web サーバの構成

既定：

- ・ インストーラに“ローカル IIS Web サーバが検出されました”と表示されていることを確認し、[このインスタンスにローカル IIS Web サーバを構成する] オプションを選択します。

- ・ インストーラに“ローカル Web サーバが見つかりません”と表示されている場合は、[インストールを中断]を選択します。“Web サーバのインストール”を確認し、Microsoft Internet Information Services (IIS) がオンになっていることを確認して、インストール・ファイルを実行することによりインストール・プロセスを開始します。

詳細：

- ・ IIS Web サーバを使用し、インストーラ・ウィザードで自動的にこれを構成できるようにすることを強くお勧めします。[自動構成動作](#)を確認してください。
- ・ インストール後に [Web サーバを手動で構成](#)することができます。このためには、インストール・プロセスの終了後に追加の手順が必要となります。この方法を選択する場合は、Web サーバを構成せずに続行するオプションを選択して、インストール・プロセスを続行してください。

5.3 手順 2：Unicode サポートのインストール

既定：

- ・ [Unicode] を選択します。

詳細：

- ・ 8 ビットおよび Unicode システムの概要とシステムでどちらを選択すべきかについての詳細は、“[文字幅設定](#)”を参照してください。

5.4 手順 3：初期セキュリティの設定

既定：

- ・ [通常] を選択します。

詳細：

- ・ さまざまなセキュリティ設定と、システムで 1 つを選択する方法の詳細は、“[インターシステムズの初期セキュリティ設定](#)”を参照してください。

5.5 手順 4：認証情報の入力

既定：

- ・ [既定の SYSTEM アカウント下で InterSystems IRIS を実行] を選択します。

詳細：

- ・ SYSTEM アカウントが常に適切とは限りません。使用するべきアカウントについての詳細は、“[Windows ユーザ・アカウント](#)”を参照してください。
- ・ 定義済みのユーザ名アカウントを指定します。インストーラにより、そのアカウントがドメインに存在すること、およびパスワードが正しいことが確認されます。

5.6 手順 5 : ユーザの構成

既定 :

- ・ 事前定義のすべての InterSystems IRIS ユーザ・アカウントで使用されるパスワードを入力します。
- ・ [次へ] を選択したら、CSPSystem アカウントのパスワードを入力します。
- ・ どちらのパスワードも、3 ~ 32 文字 (ロックダウン・インストールを選択した場合は 8 ~ 32 文字) で指定する必要があります。

詳細 :

- ・ パスワードの条件の詳細は、“[インターシステムズの初期セキュリティ設定](#)” を参照してください。
- ・ この手順で作成された事前定義のアカウントの詳細は、“[事前定義のユーザ・アカウント](#)” を確認してください。

5.7 手順 6 : インストールの確認

既定 :

- ・ 指定したインストール・オプションを確認します。
- ・ (オプション) [ライセンス] ボタンを選択して、InterSystems IRIS キーが配置されているディレクトリに移動します。キーが妥当であれば自動的に有効化され、[インストール・オプションの概要] の [ライセンスキー] 設定が更新されて [妥当] と表示されます。
- ・ インストール・オプションを確認し、オプションとしてライセンス・キーを追加したら、[インストール] を選択します。

詳細 :

- ・ この手順でライセンス・キーを有効化すると、インストール時に自動的に `install-dir/mgr` にコピーされ、`iris.key` という名前に変更されます。
- ・ この手順でライセンス・キーを有効化しない場合は、インストール後にこれを有効化できます。詳細は、“[ライセンス・キーの有効化](#)” を参照してください。

5.8 手順 7 : インストールの完了

既定 :

- ・ インストール・プロセスが完了したら、“[Windows でのインストール後の手順](#)” に進みます。

詳細 :

- ・ 既定では、インストールが完了すると、InterSystems IRIS が自動的に起動し、Windows ツール・バーのシステム・トレイ領域に InterSystems IRIS ランチャーのアイコンが追加されます。[InterSystems IRIS] のアイテムも Windows の [プログラム] メニューに追加されます。

6

Windows でのクライアント・インストール

ここでは、インストーラ・ウィザードを使用した手動のクライアント・インストールの手順について詳しく説明します。
ここに示す手順を実行する前に、以下を完了していることを確認してください。

- ・ [Windows でのインストール前の手順](#)
- ・ [Windows での手動インストール](#) (初期手順)

6.1 クライアント・インストールの概要

既定：

- ・ クライアント・インストールでは、クライアント・システムで必要となる InterSystems IRIS コンポーネントのみがインストールされます。

詳細：

- ・ クライアント・インストールには、以下のコンポーネント・グループが含まれます。
 - InterSystems IRIS ランチャー
 - スタジオ
 - データベース・ドライバ
 - InterSystems IRIS アプリケーション開発 (言語バインディングを含む)
- ・ これらのコンポーネント・グループの詳細は、“[セットアップ・タイプの選択](#)” を参照してください。

6.2 手順 1：インストールの確認

既定：

- ・ 指定したインストール・オプションを確認します。
- ・ インストール・オプションを確認したら、[インストール] を選択します。

6.3 手順 2 : インストールの完了

既定 :

- ・ クライアントを使用するには、まず、そのクライアントの優先接続サーバを指定する必要があります。詳細は、“[リモート・サーバ接続の定義](#)” を参照してください。
- ・ インストール・プロセスが完了したら、“[Windows でのインストール後の手順](#)” に進みます。

詳細 :

- ・ 既定では、Windows ツール・バーのシステム・トレイ領域に InterSystems IRIS ランチャーのアイコンが追加されます。InterSystems IRIS サーバが実行されていないため、淡色で表示されています。

7

Windows での Web サーバのインストール

ここでは、インストーラ・ウィザードを使用した手動の Web サーバ・インストールの手順について詳しく説明します。
ここに示す手順を実行する前に、以下を完了していることを確認してください。

- ・ [Windows でのインストール前の手順](#)
- ・ [Windows での手動インストール](#) (初期手順)

7.1 Web サーバのインストールの概要

既定：

- ・ Web サーバ・インストールでは、Web ゲートウェイで必要となる InterSystems IRIS コンポーネントのみがインストールされます。

詳細：

- ・ Web サーバ・インストールには、以下のコンポーネント・グループが含まれます。
 - － Web ゲートウェイ
- ・ これらのコンポーネント・グループの詳細は、“[セットアップ・タイプの選択](#)”を参照してください。

7.2 手順 1：外部の Web サーバの構成

既定：

- ・ インストーラにより、Microsoft Internet Information Services (IIS) の Web サーバが自動的に構成されます。インストールを開始する前に、Web サーバがインストールされていることを確認してください。

詳細：

- ・ IIS Web サーバの[自動構成動作](#)の詳細を確認してください。
- ・ ローカル Web サーバが検出されない場合は、インストールの完了後に[手動で Web サーバに接続](#)する必要があります。

- ・ Web ゲートウェイでは、インスタンス用に構成されたサーバをポイントする次のアプリケーション・パスが構成されます。
 - /
 - /csp
 - /instance-name (既定では、/IRIS)
- ・ インストール後に、Web ゲートウェイ・アプリケーションを使用して[手動で構成を変更](#)できます。

7.3 手順 2 : インストールの確認

既定 :

- ・ 指定したインストール・オプションを確認します。
- ・ インストール・オプションを確認したら、[インストール] を選択します。

7.4 手順 3 : インストールの完了

既定 :

- ・ インストール・プロセスが完了したら、“[Windows でのインストール後の手順](#)”に進みます。

8

Windows でのカスタム・インストール

ここでは、インストーラ・ウィザードを使用した手動のカスタム・インストールの手順について詳しく説明します。
ここに示す手順を実行する前に、以下を完了していることを確認してください。

- ・ [Windows でのインストール前の手順](#)
- ・ [Windows での手動インストール](#) (初期手順)

8.1 カスタム・インストールの概要

既定：

- ・ カスタム・インストールでは、システムにインストールする InterSystems IRIS コンポーネントを選択できます。選択によっては、他のコンポーネントのインストールが必要な場合もあります。

8.2 手順 1：コンポーネントの選択

既定：

- ・ インストールするコンポーネントを選択します。一部のコンポーネントにはサブ項目があります。これらを表示するには、[+] アイコンを選択します。
- ・ コンポーネントをクリックすると、短い **機能説明** が表示されます。
- ・ コンポーネントの横にあるドロップダウンを使用して、インストールするかどうかを選択します。**[この機能は利用できません]** に対応する **[X]** アイコンを選択すると、そのコンポーネントと任意のサブ項目がインストールされなくなります。
- ・ 続行する前に、カスタム・インストールの [Web サーバ構成](#) の次のステップの詳細を確認してください。

詳細：

- ・ [利用可能なコンポーネントのテーブル](#)を確認します。
- ・ **[容量]** をクリックすると、選択したコンポーネントをインストールするための十分な容量がディスクにあるかどうかを確認できます。

8.3 手順 2 : Web サーバの構成

既定 :

- ・ Web ゲートウェイ・コンポーネント ([Web サーバ・ゲートウェイ]) を含める場合は、インストールを開始する前に、[IIS 用 CSP] サブ項目が含まれていること、および Microsoft Internet Information Services (IIS) Web サーバがインストールされていることを確認してください。インストーラにより、Web ゲートウェイ向けに IIS Web サーバが自動的に構成されます。

詳細 :

- ・ [Web サーバ・ゲートウェイ] および [IIS 用 CSP] の両方のコンポーネントが選択されているが、IIS Web サーバが検出されない場合、IIS 構成がスキップされない限り、インストールは失敗します。
 - － IIS 構成をスキップするには、コマンド行から [インストール・ファイルを実行](#)して、CSPSKIP=1 を指定します。これにより、Web サーバの自動構成がスキップされ、手動構成に必要な IIS CSP バイナリ・ファイルが C:\inetpub\CSPGateway ディレクトリにインストールされます。インストールの終了後に、[Web サーバを手動で構成](#)する必要があります。
- ・ [Web サーバ・ゲートウェイ] コンポーネントのみが選択され、[IIS 用 CSP] コンポーネントは選択されていない場合、インストールは成功しますが、IIS CSP バイナリ・ファイルはインストールされません。このオプションにより、異なるサポート対象 Web サーバを [手動で構成](#)できるようになります。
- ・ いかなる時点においても Web サーバを使用するつもりがない場合は、これらのコンポーネントを含めなくてもかまいません。Web サーバがなければ、管理ポータルを含め、Web アプリケーションにアクセスすることはできません。

8.4 手順 3 : Unicode サポートのインストール

既定 :

- ・ [Unicode] を選択します。

詳細 :

- ・ 8 ビットおよび Unicode システムの概要とシステムでどちらを選択すべきかについての詳細は、“[文字幅設定](#)”を参照してください。

8.5 手順 4 : ポート番号の設定

既定 :

- ・ 既定のスーパーサーバ・ポート番号を使用します。

詳細 :

- ・ 既定のポート番号は 1972 です。取得されている場合、既定では 51773 またはこれ以降の使用可能な最初のポート番号になります。
- ・ 詳細は、“[ポート番号](#)”を参照してください。

8.6 手順 5 : 初期セキュリティの選択

既定 :

- ・ [通常] を選択します。

詳細 :

- ・ さまざまなセキュリティ設定と、システムで 1 つを選択する方法の詳細は、“[インターシステムズの初期セキュリティ設定](#)”を参照してください。

8.7 手順 6 : 認証情報の入力

既定 :

- ・ [既定の SYSTEM アカウント下で InterSystems IRIS を実行] を選択します。

詳細 :

- ・ SYSTEM アカウントが常に適切とは限りません。使用するべきアカウントについての詳細は、“[Windows ユーザ・アカウント](#)”を参照してください。
- ・ 定義済みのユーザ名アカウントを指定します。インストーラにより、そのアカウントがドメインに存在すること、およびパスワードが正しいことが確認されます。

8.8 手順 7 : ユーザの構成

既定 :

- ・ 事前定義のすべての InterSystems IRIS ユーザ・アカウントで使用するパスワードを入力します。
- ・ [次へ] を選択したら、CSPSystem アカウントのパスワードを入力します。
- ・ どちらのパスワードも、3 ~ 32 文字 (ロックダウン・インストールを選択した場合は 8 ~ 32 文字) で指定する必要があります。

詳細 :

- ・ パスワードの条件の詳細は、“[インターシステムズの初期セキュリティ設定](#)”を参照してください。
- ・ この手順で作成された事前定義のアカウントの詳細は、“[事前定義のユーザ・アカウント](#)”を確認してください。

8.9 手順 8 : インストールの確認

既定 :

- ・ 指定したインストール・オプションを確認します。

- ・ (オプション) **[ライセンス]** ボタンを選択して、InterSystems IRIS キーが配置されているディレクトリに移動します。キーが妥当であれば自動的に有効化され、**[インストール・オプションの概要]** の **[ライセンスキー]** 設定が更新されて **[妥当]** と表示されます。
- ・ インストール・オプションを確認し、オプションとしてライセンス・キーを追加したら、**[インストール]** を選択します。

詳細：

- ・ この手順でライセンス・キーを有効化すると、インストール時に自動的に `install-dir/mgr` にコピーされ、`iris.key` という名前に変更されます。
- ・ この手順でライセンス・キーを有効化しない場合は、インストール後にこれを有効化できます。詳細は、[“ライセンス・キーの有効化”](#) を参照してください。

8.10 手順 9：インストールの完了

既定：

- ・ インストール・プロセスが完了したら、[“Windows でのインストール後の手順”](#) に進みます。

詳細：

- ・ 既定では、インストールが完了すると、InterSystems IRIS が自動的に起動し、Windows ツール・バーのシステム・トレイ領域に InterSystems IRIS ランチャーのアイコンが追加されます。**[InterSystems IRIS]** の項目も Windows の **[プログラム]** メニューに追加されます。

9

Windows での自動インストール

ここでは、自動インストールの手順について詳しく説明します。

ここに示す手順を実行する前に、以下を完了していることを確認してください。

- ・ [Windows でのインストール前の手順](#)

9.1 自動インストールの概要

既定：

- ・ 自動操作ではユーザの入力が求められません。その代わりに、コマンド行で InterSystems IRIS インストール・ファイルに渡されるプロパティから入力を取得します。
- ・ これらのプロパティの詳細は、“[コマンド行のリファレンス](#)” を参照してください。
- ・ 自動インストール、アップグレード、再インストール、およびアンインストール中には、メッセージは表示されません。

9.2 手順 1：開始前

既定：

- ・ インストールを開始する前に、必要な[インストール前の手順](#)を実行します。
- ・ 外部 Web サーバをインストールする方針を決定します。
 - － 最も簡単なオプションは、インストールを開始する前に [Microsoft Internet Information Services \(IIS\) をインストール](#)することです。インストーラにより、この Web サーバを自動構成できます。
 - － 異なる Web サーバを使用するか、IIS Web サーバを[手動で構成](#)する予定である場合は、インストールの前に実施する必要のある手順について、“[Web サーバのインストール](#)”を確認してください。

9.3 手順 2：指定するプロパティの決定

既定：

- ・ 基本の自動インストールを実行するために、追加のプロパティを含める必要はありません。インストーラでは既定のオプションを使用します。

詳細：

- ・ [コマンド行プロパティの使用](#)に関する詳細を確認します。
 - － PROPERTYNAME=argument の形式を使用します。
 - － プロパティは大文字である必要があります。
 - － 引数では、大文字と小文字は区別されません。
 - － 各プロパティは 1 つ以上のスペースで区切られる必要があります。
- ・ 自動インストールで利用可能な[コマンド行のプロパティ](#)のテーブルを参照してください。
- ・ 自動インストールで使用するプロパティを書き留めてください。

9.4 手順 3：インストールする機能の決定

既定：

- ・ インストールする機能を決定するには、ADDLOCAL プロパティを使用します。
- ・ 空白のままにすると、既定で ADDLOCAL=ALL に設定され、すべての機能がインストールされます。
- ・ 基本的な開発環境では、このプロパティを含める必要はありません。すべての機能がインストールされます。

詳細：

- ・ [カスタム・インストール可能な要素](#)の指定の詳細を確認します。
 - － 含める機能を決定するには、ADDLOCAL プロパティを使用します。
 - － コンポーネント・グループの featurename を指定し、その後にそのグループ内の featurename コンポーネントをコンマで区切って指定します。各コンポーネント・グループに対してこれを繰り返し、コンマ区切りのリストを作成します。
- ・ インストールで利用可能な“[カスタム・インストール可能な機能](#)”のテーブルを参照してください。

9.5 手順 4：インストール・コマンドの作成

既定：

- ・ 以下のコマンドを使用します。

```
<path>\<installer>.exe /instance <instancename> /q{b|n} <properties>
```

- ・ 以下を指定します。

変数	説明
<path>	InterSystems IRIS インストール・ファイルのパス。
<installer>.exe	InterSystems IRIS インストール・ファイルの名前。
<instancename>	新しい InterSystems IRIS インスタンスの名前。省略した場合、既定値は IRIS ですが、マシンに 1 つ以上のインスタンスが既にインストールされている場合は、別の値を指定する必要があります。
/qb または /qn	インストール中に進捗バーを表示するか (/qb)、または完全サイレント・インストールを実行するか (/qn)。
<properties>	インストーラに渡すプロパティ(“ コマンド行のプロパティ ”のテーブルを参照)。

詳細 :

- ・ <properties> を、インストールに含める任意の[プロパティ](#)で置き換えます。
- ・ ADDLOCAL プロパティを使用して、インストールする[機能](#)を指定します。

例 :

- ・ 64 ビット Windows システム上の **C:\InterSystems\MyIris** というインストール・ディレクトリに既定のインスタンス名で InterSystems IRIS インスタンスをインストールします。

```
C:\downloads\IRIS-<version_number>-win_x64.exe /qn INSTALLDIR=C:\InterSystems\MyIris
```

- ・ インスタンス名 **IrisA** で InterSystems IRIS のインスタンスをインストールします。

```
C:\downloads\IRIS-<version_number>-win_x64.exe /instance IrisA /qn
```

- ・ ADDLOCAL プロパティを使用して機能のサブセットをインストールします。

```
C:\downloads\IRIS-<version_number>-win_x64.exe /qn ADDLOCAL=cube, server, server_user
```

9.6 手順 5 : インスタンスのインストール

既定 :

- ・ コマンド行インタフェースを使用して、任意のプロパティを含め、コマンドを実行します。
- ・ インストールが完了したら、“[Windows でのインストール後の手順](#)”に進みます。

10

Windows でのインストール後の手順

ここでは、InterSystems IRIS の Windows でのインストールにおけるインストール後のタスクを詳しく説明します。
ここに示すタスクを実行する前に、以下を完了していることを確認してください。

- ・ [Windows でのインストール前の手順](#)
- ・ [手動](#)または[自動](#)インストールの正常な実行。

10.1 インストール後のタスク

開始：

- ・ [管理ポータル](#)を使用して、InterSystems IRIS インスタンスを管理します。
- ・ インスタンスが[自動的に起動](#)されないようにします。

Web サーバのセットアップ：

- ・ インストール・プロセスで Web サーバを自動構成しなかった場合は、[これを手動で接続](#)する必要があります。
- ・ Web サーバが構成の変更を実装するためには、インストールの終了後に Web サーバを再起動する必要があります。

高度なセットアップ：

- ・ リモートで他の InterSystems IRIS のインスタンスに接続する場合は、“[リモート・サーバ接続の定義](#)”に記載されている手順に従います。
- ・ 大量のメモリを消費するアクティビティを実行する場合は、適宜[システム・メモリを割り当て](#)ます。
- ・ InterSystems IRIS が[サードパーティ・ソフトウェアとやり取り](#)する方法の詳細を確認します。
- ・ 別のデータベースから新しくインストールした InterSystems IRIS インスタンスにデータを移行します。

特別な考慮事項：

- ・ 複数の InterSystems IRIS インスタンスを実行している場合は、“[複数の InterSystems IRIS インスタンスの構成](#)”を確認してください。
- ・ [InterSystems IRIS の言語を変更](#)します。
- ・ Windows [書き込みキャッシュ・バッファ](#)が適切に有効化されていることを確認します。

